

# 日本材料学会 第71期学術講演会 参加報告

2022年6月8日

博士2年 羽山 元晶      修士2年 須山 琉  
修士1年 笠井 大剛      修士1年 吉川 直希

5月29日から 5月31日に大阪府の大阪科学技術センターにて開催された、日本材料学会 第71期学術講演会に参加し、発表を行いました。学術講演会では11のオーガナイズドセッションと一般セッションが開催され、さまざまな分野の学生や大学・企業の研究者などが参加し、約160件の講演が行われました。今年度は対面とオンラインのハイブリッド開催であり、久しぶりの対面参加となりました。



D2 羽山

私は「疲労現象とその支配要因」のセッションにて「X線応力その場測定による浸炭およびズブ焼入れを施した鋼に生じた残留応力解放挙動の比較」の題で発表を行いました。発表はこれまでも複数回経験していたこともありスムーズに行うことができましたと思います。質疑応答では他大学の先生や企業の研究者の方から質問およびコメントを頂き、今後の研究の課題を見つけることができ、有意義な時間となりました。また学会中に他大学との学生とも交流や議論ができ、研究のモチベーションにおいても良い刺激となりました。

最後に発表の機会を下さった小茂鳥先生、会場でお世話になった先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。



M2 須山

「疲労現象とその支配要因」のセッションにて“低温ガスブローIH窒化処理を施したチタン合金の疲労特性評価”の題で発表を行いました。配属後もコロナで登校できなかった期間を乗り越え、ようやく公の場で自分の研究成果を発表できたことは感慨深いものがあります。初めての対面発表ということもありとても緊張しましたが、質疑応答にて様々なコメントやアドバイスを頂き非常に勉強になりました。これで終わりというわけではありませんので、今回の経験を原動力として引き続き研究に励みたいと思います。最後に、発表の機会を下さった小茂鳥先生、装置や供試材など研究にご助力頂いた方々にこの場を借りて感謝申し上げます。



M1 笠井

私は一般公演にて「炭素/アルミナMC粒子を用いたAIH-FPPによる浸炭焼入れ処理の開発」の題で発表を行いました。初めての学会発表であり緊張しましたが、練習通りスムーズに発表できたと思います。会場では他大学の修士課程の学生の発表も聞くことができ、よい刺激となりました。今後も研究活動を一生懸命進めていきたいと思っています。

このような発表の機会を与えてくださった小茂鳥教授，グループミーティングにて様々な助言をくださった武末先生にお礼申し上げます。また，博士課程の羽山さんをはじめ多くの方々にお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。



M1 吉川

私は、「生体・医療・福祉材料」のセッションにて、「微細溝加工を施したCo-Cr合金製培養面上におけるマウス由来筋芽細胞の配向性制御」の題で発表を行いました。本セッションには、対面とオンライン合わせて約20人の聴講者がいらっしやり、初めての学会発表であった上に、対面での発表経験がほとんどなかったため、少し緊張しましたが、練習通り問題なく発表できたと思います。他大学の先生方からコメントもいただき、貴重な経験ができました。今後も共同研究者や周囲の方々と協調しながら研究を進めていきたいと思っています。最後に発表の機会を与えてくださった小茂鳥先生，東京女子医科大学今城先生，理化学研究所片平先生，東京電機大学森田先生，今川君に御礼申し上げます。



小茂鳥先生，研究室OBの曙先生，菊池先生，武末先生と